Route Press ルートプレス 21st.

道21世紀新聞
発行所：内閣府認証 特定非営利活動法人 人と道研究会
東京都千代田区三番町7-1　朝日三番町プラザ
Web http://www.route-press21st.jp

災害時の復旧に不屈の活動

頼りになる地域の建設業者
噴火、鳥インフルにも素早い対応

宮崎、鹿児島県境の霧島山系新燃岳（1421㍍）が半世紀ぶりに噴火。宮崎県高原町は避難勧告を出し都城市も厳戒態勢が続く。県内では鳥インフルエンザも発生、殺処分が続く。昨春同県は牛や豚の口蹄疫に苦しんだ。日本は地震、台風、豪雨など自然災害の常襲国。災害防止や復旧の最前線に立つのは、郷土を知悉し愛着を持つ地元の土木建設業者だ。降灰除去、処分した家畜の埋却、消毒……。重機や作業員を抱える地域の業者は、災害時真っ先に現場に入り、その奮闘が国土を守ってきた。だが、公共事業削減で業界は疲弊。業界再生を訴える社団法人全国建設業協会などの話から、捨て身で現場に立つ地元業者の知られざる実態を紹介する。（写真提供　宮崎県）

鳥インフルエンザ感染拡大防止で鶏舎を消毒

口蹄疫の教訓活かす

宮　崎

新燃岳噴火の1週間前、同県佐土原町の養鶏場から、宮崎家畜保健衛生所に鶏38羽が死んだと通報があり、県の対策本部は翌日「高病原性ウイルスを検出」と発表。鳥インフルエンザ感染が確認された。

「高病原性」とは感染した鳥の致死率が7割を超える危険な病原のこと。県は養鶏場から半径10㌔圏を移動制限し、鶏の殺処分を開始。その後も県内各地で発生が確認され、殺処分や鶏舎の消毒が続いた。

同県建設業協会の宮崎地区協会や高鍋、西都地区協は、鳥の糞尿の埋却作業や各地区の消毒ポイント設置、消毒マット設置に、24時間体制で従事した。

感染拡大防止対策は手際良かった。昨春、県内で口蹄疫発症の確認以後、官民一体となった拡散防止対策や殺処分、地元業者が担った埋却処分の130日間に渡る体験が、鳥インフル対策で活かされた。

ウイルスを運ぶ宿主は渡り鳥とされ、感染防止は容易ではなく、得体の知れないウイルスの実態解明や防疫対策は遠い先の話。鳥インフルから人の生活を護り、影響を最小に食い止める差し当りの手段は、感染の早期発見と拡散防止、ウイルスの宿主の速やかな除却しかない。

防疫の最終段階は、地

平時に自治体と防災対策のコンセンサスを

全国建設業協会や地域に根ざす各都道府県建設業協会の会員企業は、災害時の復旧活動をはじめ、社会貢献活動に取り組んできた。しかし昨春、宮崎県建設業協会は思いもかけぬ地域防災に関わった。同県で発生した口蹄疫だ。

口蹄疫被害で最も処分頭数が多かったのは川南町で16万7571頭、高鍋町で3万2611頭、木城町で2万7222頭…など。全国有数の畜産圏域から牛や豚が消えた。

県は発生後すぐ、被害拡大を食い止めようと同県建設業協会に、消毒作業の徹底や防疫作業の応援を要請した。処分された家畜を埋めるにも、穴を掘る重機を持ち、作業員を抱えているのは地元の土木・建設業者だからだ。

同県建設業協会は約4カ月間、会員企業従業員約1万2000人を動員、防疫対策に奔走した。だが、故郷を危機から守ろうと寝食を忘れて重機を駆使し、作業に当ったオペレーターや作業員の活動はあまり知られていない。

作業に当たった協会員は現場で情報交換しながら、手不足の時はワクチン接種や糞尿処理も率先。

「ごめんね！」。あどけない牛や豚の顔。とても正視できなかった。「家族同然の牛や豚が日に日に弱っていく。一刻も早く埋却してあげたかった」。

埋却現場で悪臭とヘドロ糞にまみれ、作業を続けたオペレーターは、畜産農家と家畜の悲惨な現場を目の当たりにし、いたたまれなかったという。

殺処分された牛や豚は深さ5㍍の穴に次々と重機で投入された。その無残な様子は戦争の悲惨さにも匹敵、精神的ダメージを受けた作業員も多い。

口蹄疫の拡大防止作業で学んだ同県建設業協会のボランティアの域を超えた貴重な活動は、今後どうシステム化し、ネットワーク化するかが課題だ。

鳥インフル対策の検証はこれからである。牛や豚の処分と鶏は同じではない。しかし、昨年の官・民の経験は相当生かされた。全国建設業協会や都道府県建設業協会が、国や都道府県と事前に取り決めた方式に即して迅速に災害に対処することは、時代と国民の要請でもある。

災害防止や復旧の最前線で奮闘し、国土を守り続けるのは郷土愛を支えとして地場の土木・建設業に携わる人々だが、国家財政の逼迫で小泉内閣以来、政権交代後も公共事業費削減や抑制が続く。

そこそこの雨でも川が溢れ斜面崩壊なども増加。時を同じくして業界は疲弊が進む。地方業界が活力を取り戻すことは、国土保全にも重要な課題だ。人の命や家畜の安全、食生活の安全にも、建設業者は頼れる存在なのである。

宮崎県建設業協会の永野征四郎会長は「未曾有の口蹄疫で、建設業者は懸命に被害の拡大防止に努めた。建設業者の社会的義務だと自負するからだ。国や自治体には社会資本の整備など、地域の実情に沿った様々な対策をお願いしたい」と訴える。

口蹄疫でも重機が重要な役割果たす

投入した大量の重機類

埋却作業に投入した大量の重機は、バックホウ2722台／ダンプ・キャリー1549台／ユニック・アルミトラック252台／タイヤショベル513台／フォークリフト67台／ブルドーザー102台／クレーン36台など。昼夜を問わぬ作業のため、発電機やバルーンライトなども大量に投入された。

県内10地区に設置した消毒ポイントでは、従事した会員企業従業員の多くが24時間態勢で作業。作業車1194台／消毒用動噴128台／照明器具1194台／マット124枚／ポリタンク1625個を用意した。

爆発・噴火が続く新燃岳

宮崎県建設業協会
会　長
永野　征四郎氏

社団法人 全国建設業協会

【全国建設業協会とは】

土木・建設業界は、全国約2万3000社の建設業者が47都道府県ごとに建設業団体を組織。その地域団体が社団法人全国建設業協会の会員を構成。

地域経済社会を支える基幹産業として雇用の維持をはじめ、河川・道路などの環境保全や災害時の応急復旧活動など、社会貢献活動に取り組む。

すぐれた技術者、技能者の確保や、将来にわたって技術、技能の継承が出来る環境づくりも活動の大きな柱だ。